

こんにちは。中堀明美です!新型コロナウイルスの影響で、何かと不自由な自粛生活の中、皆さまは、何をしてお過ごしされていますか?私は、保存食作りハマっています。トイレトペーパーや食品が、スーパーから消えたりと...様々な所で影響が出ましたよね。そんな光景を目の当たりにし、「食べ物なくなる!!」と怖くなりました。買い溜めはダメ!分かっていても焦ると思います。私は買い溜めするほど、お財布に余裕もないので(汗)出来るだけ日持ちする、保存食レシピを探しては作り、ご飯のお供にしていました。(なめ茸、そば、佃煮、ふりかけが簡単でオススメです。)

そんな中、昔の人はどんな保存食を作って、どんな時に食べていたのだろう?と気になり調べてみると...
兵士や忍者の携帯食でもある「兵糧丸」という保存食を見つけたので、実際に作ってみました!!



経営理念
有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

いつも有限会社大名をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。急ではございますが、弊社は、お客様と従業員の安全および、新型コロナウイルス感染拡大防止への社会的責任を第一に考え、臨時休業の対応を取らせていただく運びとなりました。誠に勝手ながら下記期間は、臨時休業とさせて頂いております。皆様にはご不便とご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

臨時休業のお知らせ 【期間】2020年4月23日～6月30日(予定)
【期間後の営業について】7月1日以降の営業につきましては、通常営業の予定ですが、社会情勢を踏まえて期間を延長する場合がございます。変更時は改めてご連絡をさせていただきます。

休業明け以降は、更なる「届けますっ大和魂!」の熱い気持ちを持って古美術品、歴史を発信していく所存でございます。今後とも、末永く宜しくお願い致します。同時に皆様のご健勝をスタッフ一同、お祈り申し上げます。

有限会社 大名 代表取締役 花本 隆資
スタッフ一同

材料

●4人分(保存期間、常温で約15日)

- ☆ そば粉(小麦粉)...80g
- ☆ すりごま...40g
- ☆ 料理酒...少し
- ☆ 上新粉...80g
- ☆ はちみつ...20g
- ☆ きな粉...80g
- ☆ 水...適量

道具...ボウル・蒸し器・クッキングペーパー

作り方

- 1 ☆をボウルに入れる
- 2 混ぜ合わせ、水を少しずつ加えていく
- 3 ②を、直径3～4センチくらいに丸める。
- 4 クッキングペーパーをひき、③を蒸気の上上がった蒸し器に入れ、約20～30分蒸す。
- 5 できあがり!



なぜ兵糧丸が作られたのか...

戦で勝敗を決めるのは強い兵力ですが、そのためには相当なエネルギー補給が必要です。百万の軍勢であっても、飢えてしまえば無力に等しい。(まさに「腹が減っては戦ができぬ」ですね)足軽は、1日にお米5合の、支給があったそうです。ほかに、副食や水が要るので、食料を途切れることなく補給し続けるのは至難の技でした。その為、少量食べただけで空腹をしのげる食料の必要性が生まれました。補給を少しでも楽にしたい!と作られたのが、兵糧丸です。上杉謙信や武田信玄など戦国大名が、兵糧丸の価値を認識し活用していたそうです。ですが兵糧丸について認知度が低いのは、携帯食の製法は軍事機密であって、おおよけにされなかったことが影響しているそうです。

じゃーん!! 完成

自分で作ったのもあり、味に期待する甘いものが大好きな息子(大志)

息子「...あれ? お母さん、味がせんよ?」
私「ほんまじゃねえ...きな粉と砂糖をかけて食べてみようか!」
息子「...うまっ!!うますぎる!!」

きな粉と砂糖をかけてあげると、ペロリと4つ食べました!!
2つでお腹が膨れるそうなのですが...よっぽど美味しかったんですね!!
皆さんも、是非作ってみてください。忍者の味が体験出来ますよ!

(※自粛の為、お花見が出来なかったため、桜のウォールステッカーを壁に貼って気分を味わいました)

実食!!

お年玉プレゼント

祝 愛知県 こんぴらさん様へ

ご当選おめでとうございます!!

届けましたっ!

こんぴらさん様からいただいたメッセージ

4月号を見て、「中堀さんのところのゴリラのマスクがすごいな!」と家族で話していたところ、後欄のお年玉プレゼントの発表記事に私のニックネームがあったので「まさか?」と思っていましたが、現実みたいで、超ラッキー!感謝!! 感激!!!!!!で、みんなでよろこんでいました。先日スティック掃除機は、「手軽でいいな」とおもしろい、防疫でも収束したら買いにいこうと思っていたところでした。ちょうどタイミングで職場の掃除機が破損してダメになったので、先代の掃除機の生まれ変わりだと思って大切に使用させていただきます。(すごい吸います、音も静かです)。写真は仕事中にタイマー撮影で急いで撮ったので、あまりおもしろく撮れず、すみません。でもスタッフ共々、感謝!の気持ちをこめて撮りました。どうぞ、よろしくお願い致します。

こんにちは、島谷貴子です。今回は「乱れ刃」の「矢筈刃」「箱乱刃」について語らせて頂きます。

語ります 大和魂

主な乱れ刃

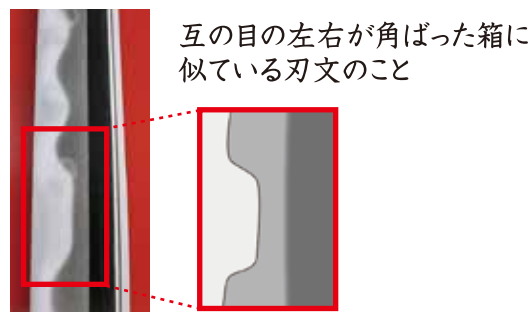
これらの刃文がいくつか混ざり合い、数十種類にもなると言われています。

- 湾れ刃 (Vol.33 参照)
- 互の目刃 (Vol.34 参照)
- 丁子刃 (Vol.35 参照)
- 皆焼刃
- 矢筈刃
- 箱乱刃
- 簾
- 瓢箪刃
- 数珠刃
- 濤瀾刃
- 菊水刃



今回はこちら!

矢筈刃、箱乱刃とは?



いつから?

室町時代より盛んになったと言われています。

	盛んな地域	代表刀工	時代
矢筈	美濃(岐阜)、尾張(愛知)	和泉守 兼定、信高	室町~
箱乱	伊勢(三重)、山城(京都)、加賀(石川)	伊勢 村正、平安城 長吉、加州、兼若	室町~

和泉守兼定について

和泉守兼定は、村正から伝授された湾れ刃、関の互の目刃など、色んな刃文の刀を作ることが出来る、器用なところが持ち味だった、矢筈刃の刃文も器用な兼定だから出来たのかもしれない。兼定は、現存刀の中で初めて「和泉守*」を持つことが出来、上級武将に愛されていました。(〇〇守とは、「いい仕事しますねえ」と認められ、朝廷から頂く称号の事で、ブランド品だと認められた証拠) 称号を受領出来たのは、当時の美濃国の支配者(斎藤利隆)が文化の向上に努めたからと、支配者の抱える刀工を「〇〇守」にすることにより、権威や信頼を得るためだったからです。しかし、兼定がこの世を去ったあとは関の刀は大量生産の刀と変化していき、価値が下がっていきました。

伊勢村正について

実践向きで安い刀だった為、戦国武将にとっても愛されました。江戸時代になると、徳川家で「妖刀伝説」が生まれ、幕末には幕府倒幕派の象徴となりました。

なぜ妖刀と呼ばれたのか?

戦国時代から、江戸時代になると、刀を振るう事がなくなり村正の出番もなくなっていきます。しかし... 徳川家康が刀で2度傷を負ったのも村正。家康の祖父・清康が殺された時の刀も村正。家康の父・広忠が殺された時の刀も村正。家康の長男・信康が切腹の際の介錯に使用されたのも村正。こうして、將軍徳川家の血族を祟る、妖刀だと言われるようになった。ちなみに、祖父・父を殺した家臣もまた、村正の刀で殺められているのです...



なぜ象徴となったのか?

討幕派と土佐藩の間で、連合政権の主導権を巡る激論があった時、討幕派は追い詰められた。しかし西郷隆盛の「短刀1本あれば何も問題ない」という言葉が状況を変えた。なんと、西郷が所持していたのは妖刀村正だった! 將軍家にとっては世にも恐ろしい刀だったからです!



いかがでしたか? 一振り、一振り想いが込められ作られた刀ですが、今回は刀工にもタイムスリップしてみました! 私も、お客様に刀工の気持ちも一緒に届けられるような、ニュースレターをこれからも目指していきます!! ご意見お待ちしておりますので、どしどしお寄せください。

ハナエモンのタイムスリップ!

今号は「幕末武士の京都グルメ日記」*というタイトルに惹かれて購入した本があるのですが、その日記を書いた武士にタァ〜イムスリップ! ※八郎が將軍家茂護衛の為に、京都に上った際の日記を現代語訳したもの



伊庭の小天狗

幕末江戸四大道場の一つ、「練武館」の心形刀流宗家の長男として生まれた八郎。小さい頃から、エリート教育を受け、早くして剣豪になったのかと思いきや、少年時代は身体も弱く、漢学(中国に関する学問)、蘭学(西洋に関する学問)の方が好きだった。実際に剣術をし始めたのは、周りの武士と比べると遅い16歳頃からだそうです。しかし、持って生まれた才能と真面目で努力家な性格でメキメキと実力をつけ、その強さから小天狗と異名をとるようになったそうです。



八郎は色白で美男でモテたと言われています。戊辰戦争時、函館への渡航費は吉原の花魁が用立てたといわれています。更に当時、旗本、御家人の間で流行った講武所鬻にしていたそうです。日記の中でも、月代を剃ったと記述があります。どんな顔だったか気になりますが、分かりやすい写真は残ってないそうです。



戊辰戦争で隻腕に

江戸幕府と新政府軍が戦争を始めると、八郎は幕臣として参戦します。箱根の関所での戦いで、足に被弾し、その背後から左手首の皮一枚を残して斬られてしまいます。振り向きざまに一突きで相手を絶命させ、自身で皮、骨を削り落としたと従者が証言しています。函館に移ってからも、片腕ながら1軍を率いて、奮戦しましたが、胸に被弾してしまいます。開城の前夜に自決をしたそうです。



当時は泰平の世が続き過ぎたせいか、乗馬が出来ない、刀を抜いて斬りあいをしたことがない武士も沢山いたそうです。そんな中、幕臣として最後まで力の限り、戦い続けた八郎。そんな八郎が書いた日記。さぞ、当時の世情、自身の考えなどを熱く書いているかと思いきや、現代の人達が行くルートでの観光、食べ物に関する感想、買い物した物の記述など、いたって普通の内容です。時代とのギャップを感じ、八郎の人柄を垣間見れた気がします。是非、皆さんにも読んでいただきたい一冊です。

